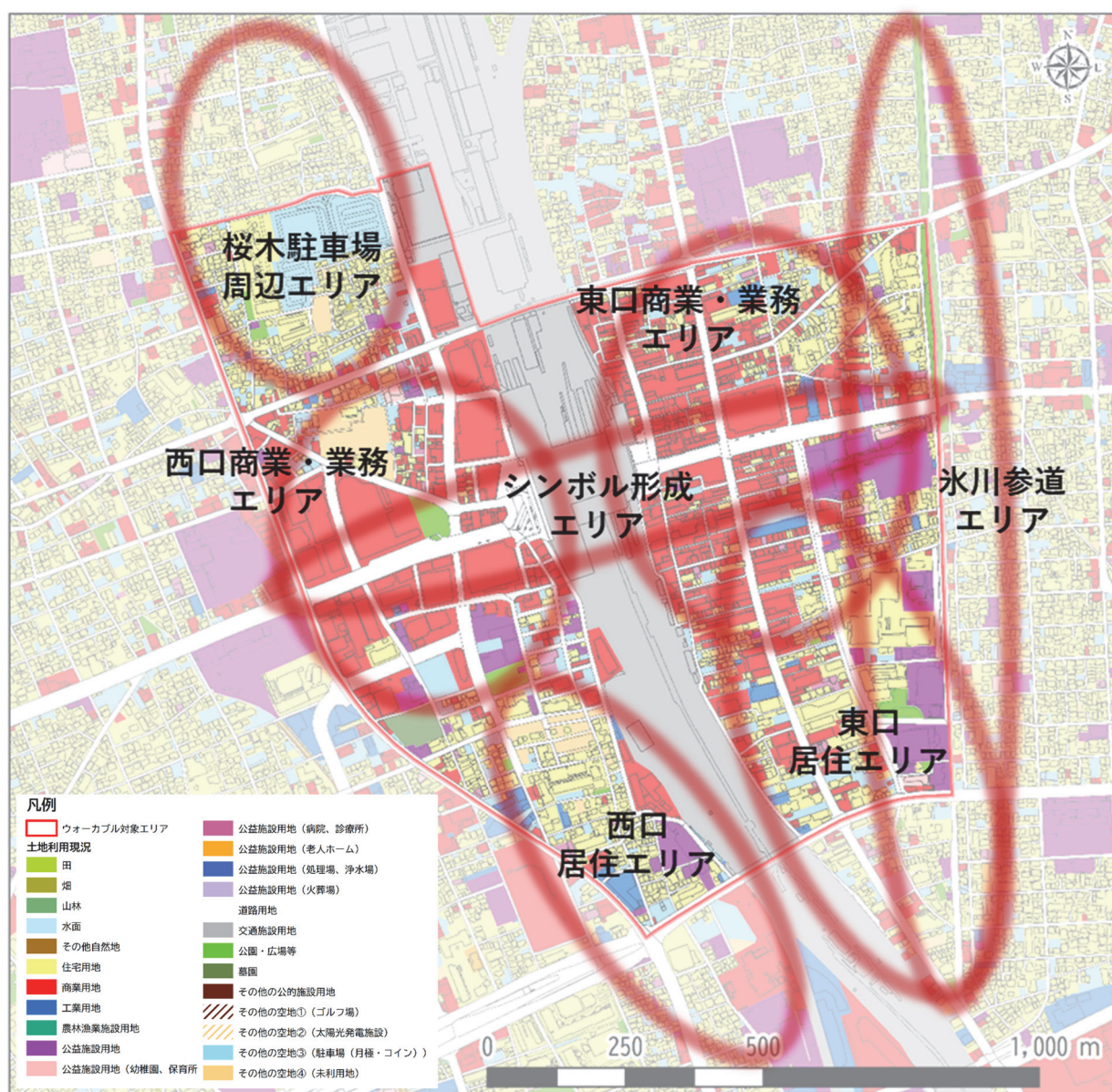


第6章 大宮駅周辺のエリア別のウォーカブルなまちづくりの方向性

- 第5章では、大宮駅周辺を構成する4つのタイプ別に、目指す方向性の実現に向けた施策を整理しましたが、大宮駅周辺のウォーカブルなまちづくりを実現していくためには、歩行者空間の形成だけでなく、地域の関係者と一体となって取り組む必要があります。
- そのため、大宮駅周辺の土地利用や資源分布状況等から大宮駅周辺地域を複数のエリアに分割し、そのエリアごとにウォーカブルなまちづくりの観点から、どのようなまちづくりを進めていくことが望ましいかの方向性を、市民や地域の関係者からの意見（参考資料におけるオープンハウスの意見を参照）を踏まえ整理しました。
- 今後、この方向性に基づき各エリアにおける地域の関係者と意見交換を行いながら、エリアごとのまちづくりの方向性を定め、その実現に向けた取組を官民連携で推進していきます。

【大宮駅周辺の土地利用等に応じたエリア区分】



<大宮駅周辺におけるエリア別のウォーカブルなまちづくりの方向性>

エリア	ウォーカブルなまちづくりの方向性
シンボル形成 エリア	『駅と氷川参道、見沼をつなぐ風格と機能を併せ持つシンボル軸』 - 沿道と一体的な広幅員の歩行者空間が確保され、道路空間や沿道の民地を活用したオープンカフェやキッチンカー、パフォーマンス等が日常的に行われるような空間を創出します（歩行者利便増進道路制度の活用） - 沿道は道路に開かれた統一感のあるグランドレベルが形成され、夜間景観にも配慮された空間を創出します（例えば、道路面はガラス張りとし、夜はお店から光が漏れている） - 道路上にはベンチや植栽等が設置され、居心地の良い公園のような滞在空間を形成します - 道路上にはモビリティ・ハブが設置され、エリア内外の回遊を促します
氷川参道 エリア	『大宮の歴史・文化を伝えるシンボル軸』 - 氷川神社へつながる緑豊かで落ち着いた歩行者専用の空間を創出します - 参道としての風格がありつつ、参道沿道と一体的な賑わいを形成します - 平成ひろばなど、市民の交流を促すイベントが日常的に実施されているような空間を形成します - 一の宮通りは、周辺の道路整備や自動車の進入を抑制することで、歩行者が安心してながら歩きができるように形成します - 一の宮通りの日常は準氷川参道として、地域資源と関連したイベント開催時には観客をおもてなしする空間として、2面を兼ね備えた街路空間を形成します - 一の宮通り沿道のセットバック部分を活用し、沿道の裏側へ続く入りたくなる路地空間を形成し、ヒューマンスケールで居心地の良い空間を形成します
東口商業・業務 エリア	『新旧が混在した賑わいと活力のあるまちづくり』 - 大宮駅の玄関口として、来街者や居住者をもてなす歩行者中心の空間を形成します - 商店街は歩行者がながら歩きを楽しめる、沿道と一体となった賑わいを形成します - 中山道へつながる魅力的な路地空間を維持します
西口商業・業務 エリア	『交流の活性化によりイノベーションが生まれるまちづくり』 - 働いている人や訪れた人が思い思いの過ごし方ができ、リフレッシュできる滞在空間を充実します（体も動かすことができ、心も体も健康（ウェルビーイング）に） - 大宮停車場大成線は、道路に沿道のにぎわいが滲みだし、歩行者中心で居心地の良い空間を形成します
桜木駐車場周辺 エリア	『桜木駐車場の新たな土地利用を核としたまちづくり』 - 桜木駐車場の新たな土地利用と一体的な賑わい空間を創出します - 駅から桜木駐車場へ誘う安全で歩きたくなる歩行者ネットワークを形成します
東口居住 エリア	『利便性と楽しさを兼ね備えたまちづくり』 - 大宮駅や新都心方面へ安全・快適にアクセスできる歩行者ネットワークを形成します - 住民が集え、思い思いの過ごし方ができるオープンスペースや施設等の滞在空間を形成します - 駅側から区役所や氷川参道へ向かう東西ネットワークを強化します
西口居住 エリア	『利便性と住宅地としての落ち着きを兼ね備えたまちづくり』 - 大宮駅や新都心方面への安全・快適にアクセスできるネットワークを形成します - 街路樹と沿道住宅の緑が一体となった緑豊かな落ち着きのある住宅地を形成します - コミュニティ活動が実施されているなど、住民が集える公園等の滞在空間を形成します